

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会
地域懇談会の結果について

開催目的

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会（以下「懇談会」）の構成員と地域における街づくりにおいて重要な役割を担う住民、地域経済界や地方自治体等の街づくり関係者との意見交換を通じ、懇談会における検討において同関係者の声を反映させることを目的とする。

主な意見交換事項

地域における街の経営戦略やICTを活用した街づくりに関するベストプラクティス及び「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」※及びそれに基づく「ICTを活用した新たな街づくりモデルの在り方」※※を踏まえ、以下の点について意見交換を実施する。

- (1) 地域におけるICTを活用した街づくりに関する取組の現状と課題
- (2) 「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」を踏まえた地域社会への実装の在り方
- (3) 上記(2)における課題及びその解決に向けて国等に期待する役割 など

※懇談会第2回会合（平成24年2月21日） ※※同第3回会合（同年4月20日）

今後のスケジュール

平成24年4月以降、次のとおり、全国5カ所において開催。

- | | | | |
|---|----------------------|------------|-----------------------|
| ① | 4月5日(木) 15～17時 | 北陸地域(富山市) | 街のコンパクト化とICT |
| ② | 4月25日(水) 13:30～15:30 | 北海道(札幌市) | 農林水産業の活性化とICT |
| ③ | 5月10日(木) 15～17時 | 東北地域(仙台市) | 被災地におけるICT街づくり戦略 |
| ④ | 5月23日(水) 13～15時 | 四国地域(松山市) | 高齢化と観光におけるICT街づくり戦略 |
| ⑤ | 5月30日(水) 13:30～15:30 | 東海地域(名古屋市) | ICTを活用した高度なモビリティタウン戦略 |

①北陸・地域懇談会の開催について

2

開催目的

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会(以下「懇談会」という。)の構成員と、地域における街づくりにおいて重要な役割を担う住民、地域経済界や地方自治体等の街づくり関係者との意見交換を通じ、懇談会における検討において同関係者の声を反映させることを目的とする。

主な意見交換事項

北陸地域におけるコンパクトシティ戦略による街の経営や、ICTを活用した街づくりに関するベストプラクティス(医療分野、交通分野、観光分野等)及び「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」(懇談会第2回会合)を踏まえ、以下の点について、意見交換を実施する。

- (1) 北陸地域における取組の現状と課題
- (2) 「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」を踏まえた地域社会への実装の在り方
- (3) 上記(2)における課題及びその解決に向けて国等に期待する役割 など

開催日時・場所等

●日時:平成24年4月5日(木)15~17時

●場所:ボルファートとやま 琥珀の間

●協賛:北陸情報通信協議会

●街づくり関係者：

(50音順)

- ▶ 饗庭 達也 (社)石川県情報システム工業会会長
- ▶ 金岡 克己 (株)インテック代表取締役社長
- ▶ 田崎 健治 福井ケーブルテレビ(株)代表取締役社長
- ▶ 森 雅志 富山県富山市長
- ▶ 山西 潤一 富山大学人間発達科学部教授

●懇談会関係者：

- ▶ 岡 素之 住友商事(株)代表取締役会長 【懇談会座長】
- ▶ 桑津 浩太郎 (株)野村総合研究所 コンサルティング事業本部
ICT・メディア産業コンサルティング部長 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】
- ▶ 梶浦 敏範 (株)日立製作所 情報・通信システム社 スマート情報システム統括本部
上席研究員 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】

●総務省関係者：

- ▶ 利根川 一 情報通信国際戦略局長
- ▶ 齊藤 一雅 北陸総合通信局長
- ▶ 中村 裕治 情報通信国際戦略局融合戦略企画官

①北陸・地域懇談会の概要

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会 北陸・地域懇談会

平成24年4月5日(木)
15時00分～17時00分
ポルファートとやま

次 第

1 開会

2 岡座長挨拶

3 議事

(1) ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方について

(2) 北陸地域におけるICTを活用した街づくりに関する取組の現状と課題(プレゼンテーション)

① 森 雅志 富山県富山市長

② 金岡 克己 (株) インテック代表取締役社長

③ 饗庭 達也 (社) 石川県情報システム工業会会長

④ 山西 潤一 富山大学教授


⑤ 田崎 健治 福井ケーブルテレビ(株)代表取締役社長

(3) フリーディスカッション


4 閉会

⑥ 上記(1)・(2)を踏まえ、
フリーディスカッション


●総務省より、

「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」
について説明  (略)


①森・富山市長より、

「コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築」について、住民基本台帳情報等を展開した地理情報システム(GIS)や富山ライトレール等で利用できるICカード等を活用したコンパクトシティの実現に向けた取組の紹介  別添① 1 参照


②金岡・インテック社長より、

「インテックの取組みのご紹介」について、データセンターのネットワークや、2020年の社会とICTに関するビジョン等の紹介  別添① 2 参照


③饗庭・石川県情報システム工業会会長より、

「石川県情報システムご紹介」について、データの「地産地商」を進め、観光データベースを検討する、地域活性化プロジェクト等の紹介  別添① 3 参照

④山西・富山大学教授より、

「ICTを活用した街づくり-地域版コミュニティ・オブ・プラクティスを育てるインターネット市民塾-」について、富山インターネット市民塾やラーニング・シティ構想の紹介  別添① 4 参照

⑤田崎・福井ケーブルテレビ社長より、

「ふくいを中心に発進する新しい参加型まちづくり」について、メッシュWi-FiやメディアHUBによるICTを活用した協働のまちづくりの提案・紹介  別添① 5 参照

②北海道・地域懇談会の開催について

5

開催目的

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会(以下「懇談会」という。)の構成員と、地域における街づくりにおいて重要な役割を担う住民、地域経済界や地方自治体等の街づくり関係者との意見交換を通じ、懇談会における検討において同関係者の声を反映させることを目的とする。

主な意見交換事項

北海道における農林水産業の活性化戦略やICTを活用した街づくりに関するベストプラクティス及び「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」(懇談会第2回会合)及びそれに基づく「ICTを活用した新たな街づくりモデルの在り方」(同第3回会合)を踏まえ、以下の点について意見交換を実施する。

- (1) 北海道における取組の現状と課題
- (2) 「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」等を踏まえた地域社会への実装の在り方
- (3) 上記(2)における課題及びその解決に向けて国等に期待する役割 など

開催日時・場所等

- **日時:** 平成24年4月25日(水) 13:30～15:30
- **場所:** ポールスター札幌 セレナード
- **協賛:** 北海道テレコム懇談会

●街づくり関係者：（50音順）

- ▶ 近藤 龍夫 北海道経済連合会会長
- ▶ 濱田 康行 札幌国際大学学長
- ▶ 松田 一敬 合同会社SARR代表執行役員
- ▶ 山本 強 北海道大学教授 産学連携本部副本部長
- ▶ 渡辺 孝一 岩見沢市長

●懇談会関係者：

- ▶ 平岡 幸夫 住友商事(株)メディア事業本部本部長代理 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】
- ▶ 中村 秀治 (株)三菱総合研究所情報通信政策研究本部長 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】
- ▶ 齋藤 義男 東日本電信電話(株)理事 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】
- ▶ 地平 茂一 (社)日本ケーブルテレビ連盟企画部長 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】

●総務省関係者：

- ▶ 松崎 公昭 総務副大臣
- ▶ 利根川 一 情報通信国際戦略局長
- ▶ 大久保 明 北海道総合通信局長

②北海道・地域懇談会の概要

7

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会 北海道・地域懇談会

平成24年4月25日(水)
13時30分～15時30分
ホールスター札幌2階セレナード

次 第

1 開会

2 松崎総務副大臣挨拶

3 議事

- (1) ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方について
- (2) 北海道におけるICTを活用した街づくりに関する取組の現状と課題（プレゼンテーション）


- ① 近藤 龍夫 北海道経済連合会会長
- ② 濱田 康行 札幌国際大学学長
- ③ 松田 一敬 合同会社SARR代表執行役員
- ④ 山本 強 北海道大学教授 産学連携本部副本部長
- ⑤ 渡辺 孝一 岩見沢市長

- (3) フリーディスカッション

4 閉会

⑥上記(1)・(2)を踏まえ、
フリーディスカッション

●総務省より、

「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」
について説明  (略)


①近藤・北海道経済連合会会長より、

北海道府フード・コンプレックス国際戦略総合特区
(フード特区)の取組とICTへ寄せる期待等について
紹介  別添② 1 参照


②濱田・札幌国際大学学長より、 別添② 2 参照

「住みよい街、最後まで住める街」づくりにおける福祉
水準の維持、インフラの老朽化、新産業の希薄化等
の課題解決におけるICTの役割等について紹介

③松田・SARR代表執行役員より、

ライフスタイルの多様化、モバイル環境の整備、クラウド
やテレワーク等によるICTによる起業環境の変化等
について紹介  別添② 3 参照

④山本・北海道大学教授より、

スマートフォンを活用して観光・災害・食文化情報等
を提供するGreenAR事業や、食と農業における情
報活用の在り方等について紹介  別添② 4 参照

⑤渡辺・岩見沢市長より、 別添② 5 参照

教育・医療・安全安心分野における取組、遠隔健康
相談等の官民協働型サービスや地域気象情報の
提供等、住民生活の質的向上と地域経済の活性
化のための各種取組等について紹介

③東北・地域懇談会の開催について

開催目的

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会（以下「懇談会」という。）の構成員と、地域における街づくりにおいて重要な役割を担う住民、地域経済界や地方自治体等の街づくり関係者との意見交換を通じ、懇談会における検討において同関係者の声を反映させることを目的とする。

主な意見交換事項

東北地域における震災後のICT街づくり戦略、ICTを活用した街づくりのベストプラクティスや「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」（懇談会第2回会合）及びそれに基づく「ICTを活用した新たな街づくりモデルの在り方」（同第3回会合）を踏まえ、以下の点について意見交換を実施する。

- (1) 東北地域における取組の現状と課題
- (2) 「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」等を踏まえた地域社会への実装の在り方
- (3) 上記(2)における課題及びその解決に向けて国等に期待する役割 など

開催日時・場所等

- 日時:平成24年5月10日(木)15:00～17:00
- 場所:東北総合通信局 2階 大会議室(仙台第2合同庁舎内)

③東北・地域懇談会の参加メンバー

●街づくり関係者:

(50音順)

- ▶ 佐々木 一十郎 宮城県名取市長
- ▶ 柴田 義孝 岩手県立大学副学長
- ▶ 鈴木 重男 岩手県葛巻町長
- ▶ 根元 義章 東北大学名誉教授
- ▶ 橋浦 隆一 仙台商工会議所青年部元会長

●懇談会関係者:

- ▶ 岡 素之 住友商事(株)代表取締役会長 【懇談会座長】
- ▶ 村上 輝康 産業戦略研究所代表 【懇談会構成員】
- ▶ 梶浦 敏範 (株)日立製作所スマート情報システム統括本部上席研究員 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】
- ▶ 齋藤 義男 東日本電信電話(株)理事 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】
- ▶ 地平 茂一 (社)日本ケーブルテレビ連盟企画部長 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】
- ▶ 庄子 憲義 東京海上日動リスクコンサルティング(株)常務取締役 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】
- ▶ 谷口 浩一 日本アイ・ビー・エム(株)政策渉外エグゼクティブ 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】

●総務省関係者:

- ▶ 森田 高 総務大臣政務官
- ▶ 利根川 一 情報通信国際戦略局長
- ▶ 武井 俊幸 東北総合通信局長
- ▶ 渡辺 克也 情報通信国際戦略局情報通信政策課長

③東北・地域懇談会の概要

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会 東北・地域懇談会

平成24年5月10日(木)
15時00分～17時00分
総務省東北総合通信局2階大会議室

次 第

- 1 開会
- 2 森田総務大臣政務官挨拶
- 3 岡座長挨拶
- 4 議事
 - (1) ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方について
 - (2) 東北地域におけるICTを活用した街づくりに関する取組の現状と課題(プレゼンテーション)
 - ① 柴田 義孝 岩手県立大学副学長
 - ② 橋浦 隆一 仙台商工会議所青年部元会長
 - ③ 佐々木 一十郎 名取市長
 - ④ 鈴木 重男 葛巻町長
 - ⑤ 根元 義章 東北大学名誉教授
 - (3) フリーディスカッション
- 5 閉会

⑥上記(1)・(2)①～⑤を踏まえ、
フリーディスカッション

●総務省より、
「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」
について説明 (略)

①柴田・岩手県立大学副学長より、
東日本大震災における通信状況、必要とされていた
情報、健康管理支援や産直向け業務支援システム
等について紹介 別添③1参照

②橋浦・仙台商工会議所青年部元会長より、
災害時の取組や、地域特性にあわせた紙・デジタル
サイネージなどを組み合わせた情報共有の必要性等
について紹介 別添③2参照

③佐々木・名取市長より、
東日本大震災の被害の状況、稼働しなかった防災
行政無線システム、実際に使えた情報伝達手段等
について紹介 別添③3参照

④鈴木・葛巻町長より、
災害に強く安全で安心して暮らせるための情報通信
基盤を一体的に整備する取組と今後の展開等につ
いて紹介 別添③4参照

⑤根元・東北大学名誉教授より、
東北地域における課題、地域性や情報共有でき
る場の必要性、国・自治体、大学・研究機関、産業界
の3者が連携した街づくり等について紹介

別添③5参照

④四国・地域懇談会の開催について

開催目的

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会（以下「懇談会」という。）の構成員と、地域における街づくりにおいて重要な役割を担う住民、地域経済界や地方自治体等の街づくり関係者との意見交換を通じ、懇談会における検討において同関係者の声を反映させることを目的とする。

主な意見交換事項

四国地域における高齢化や観光に関するICT街づくり戦略、ICTを活用した街づくりのベストプラクティスや「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」（懇談会第2回会合）及びそれに基づく「ICTを活用した新たな街づくりモデルの在り方」（同第3回会合）を踏まえ、以下の点について意見交換を実施。

- (1) 四国地域における取組の現状と課題
- (2) 「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」等を踏まえた地域社会への実装の在り方
- (3) 上記(2)における課題及びその解決に向けて国等に期待する役割 など

開催日時・場所等

- 日時:平成24年5月23日(水)14:00～16:00
- 場所:松山市立子規記念博物館 4階 講堂(松山市内)

●街づくり関係者:

(50音順)

- ▶ 神山 充雅 (株)愛媛CATV代表取締役社長
- ▶ 小林 真也 愛媛大学大学院教授
- ▶ 三木 義久 四国経済連合会専務理事
- ▶ 宮崎 光彦 道後温泉誇れるまちづくり推進協議会会長
- ▶ 山口 最丈 愛媛県松山市副市長

●懇談会関係者:

- ▶ 岡 素之 住友商事(株)代表取締役会長 【懇談会座長】
- ▶ 清原 慶子 東京都三鷹市長 【懇談会構成員】
- ▶ 村上 輝康 産業戦略研究所代表 【懇談会構成員】
- ▶ 梶浦 敏範 (株)日立製作所スマート情報システム統括本部上席研究員 【ICT街づくり推進部会構成員】

●総務省関係者:

- ▶ 松崎 公昭 総務副大臣
- ▶ 佐藤 文俊 政策統括官(情報通信担当)
- ▶ 副島 一則 四国総合通信局長
- ▶ 渡辺 克也 情報通信国際戦略局情報通信政策課長

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会 四国・地域懇談会

平成24年5月23日(水)
14時00分～16時00分
松山市子規記念博物館4階講堂

次 第

- 1 開会
- 2 松崎総務副大臣挨拶
- 3 岡座長挨拶
- 4 議事
 - (1) ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方について
 - (2) 四国地域におけるICTを活用した街づくりに関する取組の現状と課題(プレゼンテーション)
 - ① 三木 義久 四国経済連合会専務理事
 - ② 小林 真也 愛媛大学大学院教授
 - ③ 山口 最丈 愛媛県松山市副市長
 - ④ 神山 充雅 (株)愛媛CATV代表取締役社長
 - ⑤ 宮崎 光彦 道後温泉誇れるまちづくり推進協議会会長
 - (3) フリーディスカッション
- 5 閉会

⑥上記(1)・(2)を踏まえ、
フリーディスカッション

●総務省より、
「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」
について説明 (資料10-1 参照)

①三木・四国経済連合会専務理事より、
「e-Knowledgeコンソーシアム四国」におけるeラー
ニング等の取組と四国歴史文化道の情報発信等
について紹介 (同上)

②小林・愛媛大学大学院教授より、
四国の先進性としての高齢化と、それに対する地域
の活性化のためのICT人材育成の重要性等につ
いて紹介 (同上)

③山口・松山市副市長より、
まちなか情報発信端末「タウンボード」、電車バス
総合情報案内システムや教育分野における取組等
について紹介 (同上)

④神山・愛媛CATV代表取締役社長より、
生産者による産直市場に関するPRや、コミュニ
ティチャンネルのデータ放送画面を活用したスマ
ートテレビ実験等について紹介 (同上)

⑤宮崎・道後温泉誇れるまちづくり推進協議
会会長より、 (同上)
ICカードによる交通と観光施設等の連携、プ
ッシュ型観光情報サービスやスマートフォン
によるGPS・AR技術を活用した観光スポット
提供等について紹介

⑤東海・地域懇談会の開催について

14

開催目的

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会（以下「懇談会」という。）の構成員と、地域における街づくりにおいて重要な役割を担う住民、地域経済界や地方自治体等の街づくり関係者との意見交換を通じ、懇談会における検討において同関係者の声を反映させることを目的とする。

主な意見交換事項

東海地域におけるICTを活用した高度なモビリティ戦略、ICTを活用した街づくりのベストプラクティスや「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」（懇談会第2回会合）及びそれに基づく「ICTを活用した新たな街づくりモデルの在り方」（同第3回会合）を踏まえ、以下の点について意見交換を実施する。

- (1) 東海地域における取組の現状と課題
- (2) 「ICTを活用した新たな街づくりの基本的考え方」等を踏まえた地域社会への実装の在り方
- (3) 上記(2)における課題及びその解決に向けて国等に期待する役割 など

開催日時・場所等

- 日時:平成24年5月30日(水)13:30～15:30
- 場所:産業技術記念館 1階 大ホール

●街づくり関係者:

(50音順)

- ▶ 太田 稔彦 愛知県豊田市長
- ▶ 河野 義信 一般社団法人中部経済連合会産業振興部長
- ▶ 時津 直樹 (株)IIC代表取締役社長
- ▶ 林 良嗣 名古屋大学交通・都市国際研究センター長・同大学院環境学研究科教授
- ▶ 森川 高行 名古屋大学大学院環境学研究科教授
- ▶ 渡邊 浩之 トヨタ自動車(株)技監

●懇談会関係者:

- ▶ 小宮山 宏 (株)三菱総合研究所理事長 【懇談会座長代理】
- ▶ 岩沙 弘道 三井不動産(株)代表取締役会長 【懇談会構成員】
- ▶ 清原 慶子 東京都三鷹市長 【懇談会構成員】
- ▶ 須藤 修 東京大学大学院情報学環学環長・大学院学際情報学府学府長 【懇談会構成員】
- ▶ 齋藤 義男 東日本電信電話(株)理事 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】
- ▶ 地平 茂一 (社)日本ケーブルテレビ連盟企画部長 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】
- ▶ 平岡 幸夫 住友商事(株)メディア事業本部本部長代理 【懇談会・ICT街づくり推進部会構成員】

●総務省関係者:

- ▶ 松崎 公昭 総務副大臣
- ▶ 利根川 一 情報通信国際戦略局長
- ▶ 安藤 友裕 東海総合通信局長
- ▶ 渡辺 克也 情報通信国際戦略局情報通信政策課長

⑤東海・地域懇談会の概要

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会 東海・地域懇談会

平成24年5月30日(水)
13時30分～15時30分
産業技術記念館1階大ホール

次 第

- 1 開会
- 2 松崎総務副大臣挨拶
- 3 小宮山座長代理挨拶
- 4 議事

(1) 東海地域におけるICTを活用した街づくりに関する取組
の現状と課題(プレゼンテーション)


- ① 太田 稔彦 愛知県豊田市長
- ② 河野 義信 一般社団法人中部経済連合会産業振興部長
- ③ 林 良嗣 名古屋大学交通・都市国際研究センター長・
同 大学院環境学研究科教授
- ④ 森川 高行 名古屋大学大学院環境学研究科教授
- ⑤ 渡邊 浩之 トヨタ自動車(株)技監
- ⑥ 時津 直樹 (株)IIC代表取締役社長

(2) フリーディスカッション


- 5 閉会

⑦上記(1)を踏まえ、
フリーディスカッション


①太田・豊田市長より、

多核ネットワーク型の都市構造、環境モデル都市「ハイブリッド・シティ とよた」のコンセプトや内容等について紹介  (資料10-2参照)


②河野・中部経済連合会産業振興部長より、

東海・東南海・南海地震の減災に向けた取組、フューチャースクールの情報通信基盤等の災害時における活用イメージ等について紹介  (同上)


③林・名古屋大学交通・都市国際研究センター長より、

土地利用を凝縮し、連携・共助のできる集落形成(スマートシュリンク)の実現に向けたICTの活用アイデア等について紹介  (同上)


④森川・名古屋大学大学院教授より、

プローブ情報の活用事例、スマートフォン等からの住民からの情報(アクティブプローブ)の活用アイデア等について紹介  (同上)

⑤渡邊・トヨタ自動車技監より、

新たな車の価値(情報端末機能、エネルギー供給機能)、交通情報の共通プラットフォームの概要等について紹介  (同上)

⑥時津・IIC代表取締役社長より、

自動車を中心としたICTプラットフォーム(自動車クラウド)、プローブ情報の活用事例、救急医療の支援等について紹介  (同上)

地域懇談会における主なポイント(全体)

① 持続可能な街を実現する観点からの明確な**街の経営戦略**の実行における街データの活用による街づくり

⑤ 官・民間や部門間等の**異なる組織・分野等における街データの連携や共有**による街づくり

② 東日本大震災における経験等を踏まえたICTの活用による**防災対策等の災害に強い街づくり**

⑥ 多様な分野・主体を支える**共通的なID等を有効に活用**することによる街づくり

③ **センサー等のICTを活用した地域におけるプラットフォームの構築**による街づくり

⑦ 情報発信等の**住民参加が容易となるインターフェース**を有するICTの活用による街づくり

④ ICTの進展に伴い収集等され、産業創出等に寄与する**多種多量のビッグデータの活用**による街づくり

⑧ 「**新しい公共**」や世代間の交流等を通じた**人材育成やコミュニティ再生・形成**による街づくり

① 持続可能な街を実現する観点からの明確な**街の経営戦略**の実行における街データの活用による街づくり

- ☞ 将来的な人口減少や少子高齢化による税収減や経済の縮小に対し、公共交通等の中心市街地の魅力の向上や周辺住民における不公平感の払拭等により、住民をゆるやかに中心部へ誘導し、中心部の活性化を軸とするコンパクトシティ戦略を推進。
このような街づくりの推進のため、住民に対する将来の街の姿やメリット・デメリットの説明、施策の妥当性等に関する住民の説得・合意形成等のための基礎材料として、GISの地図データ上に、住民基本台帳データや要介護認定者データをマッピングして活用。
- ☞ 地域には魅力と課題が顕在化し、食や観光・生活といった魅力を客観的に見えるようにICTの活用により増幅することが重要。例えば、食の魅力向上のためには、レシピ情報等の流通情報とSNSやPOSデータ等の消費者の評価といった情報について、トレーサビリティによるフィードバックの仕組み等により、食の安全安心から、食を楽しむためのICT利活用を戦略的に進めることが重要。

② 東日本大震災における経験等を踏まえたICTの活用による**防災対策等の災害に強い街づくり**

- ☞ 今や、情報はインフラとして生活に不可欠なものとなっているという認識が必要。地震直後、1日後、2日後でそれぞれ住民が望んでいる情報は変わっていく。いま住民の望んでいることが何なのかを地域ごとなどに細かく把握できるシステムが必要。
- ☞ 災害直後には、情報発信も必要だったが、情報を集め、整理し、配信するマンパワーがなかったため、今後、そのような役割を決めておくことが必要。

③ センサー等のICTを活用した地域におけるプラットフォームの構築による街づくり

- ☞ スマホ等を持つ若者・働き世代を中心市街地に呼び戻し、地域コミュニティの賑わいを回復する街づくりのため、地域に分散する文字データ、映像等について、著作権に配慮しながら、制御可能なXML形式やメタデータとして蓄積し、API公開により民間のアプリ開発者が参加し、情報人の支援育成等を実施するメディアHUBを構築。そして、若者世代等に有用な情報の共有、それを使ったアプリ開発等を促進するため、メッシュWiFiを整備し、無償で提供。
- ☞ センサーとしての自動車等から収集されるデータや公的機関等が提供する各種情報を活用するための共通プラットフォームを整備することにより、安心・安全で、環境にやさしい交通による街づくりを進めることが重要。

④ ICTの進展に伴い収集等され、産業創出等に寄与する**多種多量のビッグデータの活用**による街づくり

- ☞ ICT利活用においては、ICTの上で流れる情報に価値があり、ビッグデータ等の利活用が重要。現在も山ほどビッグデータが流れており、国がもっているものや国が指示すると出てくるものを地域で使えるようにすることが重要。
- ☞ ビッグデータの活用においては、プライバシー等の問題もあるが、それらは、むしろ「おそれ」で留まっているのが現状であると考えられる。今後、実証事業等を通じて、それらを払拭し、啓蒙等していくことが必要。

⑤ 官・民間や部門間等の異なる組織・分野等における街データの連携や共有による街づくり

- ☞ 公共交通の利便性向上のため、JR、バス、私鉄、市電、LRT等の全てについて交通ICカードの共同利用を実施。さらに、自治体職員の身分証明書ICカードに同機能を搭載。このような行政や民間事業者との交通ICカードの共同利用により、乗り降りしたバス停に関するデータ等の蓄積等が可能。
- ☞ GPSにより検知されたそれぞれの位置情報が活用される電車とバスの運用管理システムについて、それを乗り継ぐ住民が多く、地元の鉄道会社によりそれらのニーズが満たされている。今後は、これを飛行機や船との乗り継ぎまで拡大し、関連情報を束ねたサービスを提供することも可能。

⑥ 多様な分野・主体を支える共通的なID等を有効に活用することによる街づくり

- ☞ 共通的なID等の利用が多様な分野・主体に広がれば、そのメリット等に対する認識も高まるため、進めていくことが必要。
- ☞ 例えば、都道府県には住民基本台帳や農家台帳がないため、農家の所得保障を配る場合には、市町村が保有している基礎データが必要。今後、このような基礎自治体等のみが保有しているデータを共通的なID制度等を活用して有機的に繋いでいくことも重要。

⑦ 情報発信等の**住民参加が容易となるインターフェース**を有するICTの活用による街づくり

- ☞ 高齢者等にとっては、ボタンが多い場合や、ややこしい機能は使われないため、テレビを用いたより簡便な操作によるインターネット利用の促進等が重要。
- ☞ これまでの国のプロジェクトからの教訓としては、専用の端末であったことや、その端末の貸出・返却に手間がかかった点があげられる。今後、スマートフォンに標準搭載されるNFC等を使えば、高齢者や外国人等の多くの者にとって使い勝手がよいものとなり、基盤として汎用性のある仕組みとすることが可能。

⑧ 「**新しい公共**」や**世代間の交流等を通じた人材育成やコミュニティ再生・形成**による街づくり

- ☞ 地域において、課題、興味、関心を同じくする者が、組織や立場を超えて集まり、そこで課題解決のための知識あるいは技術を深めていくことを通じたコミュニティの形成「地域版コミュニティ・オブ・プラクティス」が重要。また、市民塾のような団体により、住民皆で地域課題を考え、学び、そして、相互に高め合うというラーニングシティが重要。
- ☞ 将来の都市の具体像としての高齢化については、街自身が生産・消費するという営みの観点から、ICT人材の育成による衰退スパイラルへの対応が必要であり、それを実現できる力としての人の存在が重要。